

情報管理とDX支援に力

四日市事務機センター 資格取得を推進

事務機器販売や保守管理の四日市事務機センター（本社四日市市日永西2の18の7、佐野智成社長、電話059・346・5411）は、情報セキュリティとDX（デジタルトランスフォーメーション）の支援に力を入れている。セキュリティ対策の重要性を体感できるツアーの開催や、従業員のDXアドバイザー資格取得を進めている。昨年はコピー機に加え、セキュリティやデジタル化関連商材の販売実績が評価され、キヤノンの販売代理店で最高位クラスの「Excellent（エクセレント）」パートナー」に三重県で初めて選ばれた。

（二重・片桐芳樹）

キヤノン販売店で最高ランクに

同社は事務機器の保守・システムを活用したトラブルの早期解決や定期点検に



「キヤノングランドアスロン2022 ゴールド1コース」の優勝盾を持つ佐野社長。左はサイバーセキュリティ体感ツアーをPRするモニター画面

よる故障の未然防止などに取り組み、顧客数を伸ばしてきた。コロナ禍を機に社内のデジタル化を進め、その経験を生かした関連商材の提案を行っている。情報セキュリティでは、ウイルスや不正アクセス

スから守るUTM（統合脅威管理）製品の販売を強化している。また、顧客向けにウイルス感染や情報漏えいの危険性が体感できる「サイバーセキュリティツアー」などを開いている。デジタル化支援では、電子帳簿保存法に対応したグループウェアなどの販売に注力してきた。DXアドバイザーは現在、グループ会社を含め営業担当者30人中15人が保有しており、今後全員取得を目指していく。

こうした取り組みが奏功し、キヤノン代理店の年間販売実績を競う「キヤノングランドアスロン」において昨年、最高位クラスに次ぐ「ゴールド1コース」で全国優勝し、「Excellentパートナー」にランクアップした。佐野社長は「お客さまのおかげで会社と社員一人一人が成長できている。セキュリティとDXはなくてはならないもので、今後も地域のお役に立っていきたい」と話している。同社は1974年設立。グループ会社にネットワークアソシエイト（本社伊賀市）、クラウドエム（同津市）があり、グループ全体の従業員数は45人、売上高は約17億円。

